

歌麿に写楽、北斎と広重、そして国芳

五大浮世絵師展 見どころガイド

どんな展覧会？

江戸時代に誕生した新たな芸術表現「浮世絵」。
浮世絵は、江戸の生活の様子や風景、流行など身近なものが表現された、現代のSNSのような存在でした。そんな浮世絵の黄金時代をつくったのは5人のスター浮世絵師！
本展覧会では、木版画で刷られた「浮世絵版画」約140点の作品を通して浮世絵の魅力を紹介します。

【五大浮世絵師】
喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳



見どころポイント！

女性たちの表情やしぐさを浮世絵にした喜多川歌麿。個性的な役者絵でデビューし、わずか10カ月で姿を消した謎の絵師、東洲斎写楽。風景画や『北斎漫画』などで浮世絵の可能性を広げた葛飾北斎。江戸の風景を詩的に描いた歌川広重。新しい発想で人々を夢中にさせた歌川国芳。５人それぞれの表現の工夫に注目してみましょう！

3つのわざチャレンジ！

風景画だね。
表現の工夫を考えてみよう！

遠くから見てみよう



喜多川歌麿《美人十容 有徳人の女房》



歌川広重《名所江戸百景 水道橋駿河台》



歌川国芳《としよりのよふな若い人だ》

表情や服装にも注目してみよう！

近くから見てみよう

女の人かな？
見方を変えると
何かが見えてくるよ！

いろいろな角度から見てみよう

※掲載画像は出品作品と異なる場合があります。